

2025年12月1日

## 神戸学園都市 YMCA こども園 12月えんだより

### 12月の聖句 「神は我々と共におられる」

マタイによる福音書1章23節

数年ぶりに但馬地方の山あいの町に行く機会が与えられました。さすがにこの時期なので、厳しい冷え込みを心配して随分着込んでいったのですが、冷え込みは思ったほどではなく気持ちよく過ごすことができました。けれども、さすがに但馬地方。遠くに見える高い山々の頂付近はうっすらと雪が積もっていました。少しずつ「冬将軍」が北から南に降りてきているようですが、寒い自然の中でも、子どもたちが元気に遊び回れるような機会を大切にしたいと思います。

先日、神戸市内のある町で建築業を営む方とお話する機会がありました。その「ある町」とは、神戸市の中心部からさほど遠くない町です。その町では住民の高齢化が進み、地域の商店街の多くの店ではシャッターが降り、町の中心にあったスーパーも閉店してしまったとのこと。今では、月に何度か時間を決めて移動販売が来られるそうです。中でも驚いたのは「牛乳難民が増えている。」とのお話でした。高齢になった住民が手軽に牛乳を手に入れることができないということです。その町で長く暮らしてこられたその方は、「ここは山奥の集落ではなく、神戸市の中心にほど近い町なのに…。」と嘆いておられました。また、お仕事柄、地域の高齢者の方から「リフォーム」の相談を受けることがあるというお話もされていました。リフォームというと、浴室やキッチンの改修。また、和室から洋室への改修などといったものを思い浮かべるのですが、この町では「流しの扉が開けられなくなって困っているんだけど、今は年金生活なので丁番だけ交換してもらえないか？」といったような相談が多いということでした。普通の業者なら断りそうな商売にもならない内容ですが、「歩いて行ける所だし…。」と、引き受けておられるとのことでした。町の今の様子を、そしてその町に暮らす人々のことに想いを寄せておられる姿に触れさせていただき心がとても温かくなりました。

今から30数年前、病で逝った父親の葬儀の際、あわただしい中で実感がわかず涙がでなかったのですが、お知らせもしていなかったのに葬儀に参列して下さっていたこの方と目が合ったとたんに涙があふれ出たのを今でも鮮明に覚えています。先日、久しぶりにゆっくりとお話を伺いながらあの時の自分の涙の訳が理解できたように感じました。「共にいてくださる。」という思いでした。

神様は私たちのために、ひとり子イエス様を私たちのもとに送ってくださいました。私たちの罪を贖ってくださいると共に、私たちが「いつも神様が共にいてくださる。」ということをお忘れなくするためにあります。クリスマスはこの神様からの贈り物「イエス様の誕生」に感謝をする時です。今年も、神様がいつも共にいてくださることを覚え、誰かと共にいることをお忘れなく多くの方々と共にクリスマスを迎えたいと思います。

12月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (3,4,5 歳児)
月主題	わくわくするね	よろこびいっぱい/知らせよう
月の願い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリスマスの雰囲気を感じ、わくわくしながらイエスさまのお誕生を祝う。</li> <li>・絵本を見てうたを歌って楽しく過ごし、気持ちが満たされる。</li> <li>・外気に触れ、冬の訪れを感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イエスさまのお誕生の話を聞き、イエスさまが私たちのためにお生まれになったことを知り喜ぶ。</li> <li>・誰かのために祈ること、またプレゼントをもらうことだけでなく、心を込めて準備し贈ることの嬉しさを経験する。</li> <li>・寒くなってくる季節の中でも戸外で遊びを楽しみ、続いてきたあそびも大切にする。</li> </ul>
讃美歌	「おほしがひかる」 こども改 77	「きよしこのよる」 こども改 74